



日刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄証) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

91.12.13 No.3511



闘いは勝てる

PKOをきりこむ！ 根拠なきPKOをきりこむ！

十二月一日、政府はPKO法案の今国会成立を断念・・・継続審議扱いにしたとされているが、次期通常国会でも成立の見通しは全く立たず、事実上の廃案となる公算が大きい。
(十二月十一日付、朝日)

ついにやった！
六・二三から夏、秋と連続の奮闘がついに情勢を動かし、カンボジア派兵法PKO法案を事実上の廃案に追込んだのだ。
「政府や権力に立ち向かってどうせ勝てないのでは」と国民の中にも

根強くある「敗北感」を吹飛ばし、人民・大衆の下からの決起で「山」を動かしたのである。汗を流し、真剣に闘えば勝てるということに激動の真ただ中で実証した。
「湾岸戦争」から始まり小選挙区制、自衛隊の海外派兵、加えて再度の増税等、人民・大衆の中に

「反戦共同行動委員会」を先頭とする闘いが、人民・大衆の怒りと危機感を促進し、夏から秋へと急速にPKO反対の高揚をつくり出し、自・公・民路線をゆさぶってきたのである。
そして、何よりも、アジア人民の激しい反対運動の爆発がある。これが宮沢政権を迫込み、事実

激震の時代に闘いの方
向性示す

上の廃案へと追込んだのだ。

激しく揺れ動く日本の情勢と時を同じくして十二月九日、「ソ連邦消滅宣言」という重大ニュースが世界を駆けめぐった。この歴史の大転換の渦中で労働運動も、「戦国時代」を迎えている。こうした時代を生きぬき、闘いぬくためには、職場生産点での闘いとも

九一年の闘い、反戦共同行動委員会の闘いは、どう闘えば勝てるか、をさし示したといえる。この勝利の確信を固め、九二年の闘いへ挑戦しよう！

木更津支部 定期大会開催

12/7

第十四回定期大会は、木更津市「あら玉」において開催され、二波のストライキをうち抜いた自信に溢れた大会となり、大成功をかちとった。
大会は、議長に朝生代議員を選出し、冒頭あいさつに立った斎藤支部長は、「JR当局は現在の東日本七万九千名を五万人にすることを至上命令としている。強制出向攻撃には断固闘いぬく。今大会では本音の論議をしてもらいたい」と、力強く訴えた。

続いて、中野委員長から、現在のJRをめぐる情勢と闘いの方向性が明らかにされた後、一般経過報告、会計報告、会計監査報告の承認を受けて運動方針(案)、予算(案)の提起があり、質疑応答に入った。

主な意見・質問は、①裁判・地労委闘争について、②都市手当ての問題について、③時短での休日増にもなう要員配置について、④スト時の排除・ロックアウトの解釈について、⑤支部の役員体制について、等が出され、質疑の中から全体の意志統一がかけられた。現在の末期的とも言えるJR体制の崩壊を徹底的に突きまくり、久留里線の営業所化攻撃、検査周期の延伸を許さず全体が一糸乱れず闘いぬくことを確認し、大会を終了した。

九一年度木更津支部役員

支部長	斎藤 勇	執行委員	高橋 長治
副支部長	小島 鎮夫		嶋田 喜彦
書記長	小柴 光一	特別	鹿島 正己
執行委員	鈴木 正康	特別	佐野 正幸
	鈴木 敏夫	会計監査	黒川 浩之
	鈴木 正明		斎藤 英明